

## ご参考: ワクチン開発期待の進展と市場の反応

新型コロナのワクチンについて、臨床試験(治験)段階ながら、高い有効性が確認できる初期データが公表されたことで、今後の開発の進展に期待が高まっています。市場で見られた様々な反応を簡単に振り返ります。もっとも、ワクチンが行き渡るのは長期戦になる見込みで、ワクチンが全てを解決するのも不透明で、市場の反応は参考程度にとどめるべきと思われます。

### 新型コロナ: ワクチン治験で高い有効性が示唆され、今後の展開に期待高まる

米製薬大手のファイザーは2020年11月9日に、ドイツのビオンテックと開発中の新型コロナウイルスのワクチンの治験で予防の有効性が90%を超えたとする初期データを発表しました。ファイザーとビオンテックは今後の研究で安全性も確認されれば、米食品医薬品局(FDA)にワクチンの緊急使用許可(EUA)を申請すると見られています。

なお、米国立アレルギー感染症研究所のファウチ所長はファイザーの新型コロナウイルス感染症ワクチンに関する発表について、詳細の確認は必要だが、前向きの動きとしています。また、他の企業にも有望なワクチン候補が控えており今後の進展に期待を示しています。

### どこに注目すべきか: ワクチン、治験、有効性、ねじれ議会、市場

新型コロナのワクチンについて、臨床試験(治験)段階ながら、高い有効性が確認できる初期データが公表されたことで、今後の開発の進展に期待が高まっています。これを受け市場で見られた様々な反応を簡単に振り返ります。もっとも、ワクチンが行き渡るのは長期戦になる見込みで、ワクチンが全てを解決するのも不透明で、市場の反応は参考程度にとどめるべきと思われます。

まず株式市場では欧州の主要株式市場は5%前後の大幅な上昇となりました(図表1参照)。週末米国の大統領選挙でバイデン候補の勝利がほぼ確実となり、不透明要因が低下というプラス要因がありました。その上で、欧州はコロナ感染再拡大に直面するタイミングであること、そして何よりも、ワクチンのニュースが欧州取引時間に発表されたことで変動が高くなったと思われます。

時間的に若干、冷静であった米国株式市場ではセクターの動きに注目すると、S&P500種の構成セクターでは原油価格回復への期待からエネルギーセクター、金利上昇(長短金利格差の拡大)を受け金融セクターなどが堅調でした(図表2参照)。一方で、コロナの巣ごもり需要での恩恵を受けると見られていたeコマースは軟調でした。またオンライン

利用などで恩恵を受けていたハイテクが売られ、金利感応度が高いこともあり、ナスダック総合指数は下落しています。

金利(国債利回り)は欧米で長期セクターを中心に上昇(価格は下落)しました。米国の議会選挙で上院は共和党優勢でねじれ議会になるとして先週利回りが低下した後の急上昇です。足元の景気を下支えする金融緩和と、ワクチン開発の進展などのニュースが相半ばすることで、変動が高まっています。

原油価格は上昇しました。原油価格の下支えに産油国の生産調整などが画策されましたが、改めてコロナ収束による原油需要回復への期待の高さが示されました。

米大統領選挙の不透明感後退に、ワクチン開発期待が重なり市場の変動が見られました。ただ、ワクチンの開発、配布は既に市場の経済予想では一般的な前提条件と思われます。9日のタイミングでの有望なワクチン開発が公表されることは誰も予見できず、市場の変動が高まっただけという面もありそうで、投資判断として参考程度にとどめる必要がありそうです。

図表1: 主な株式市場(米国とフランス)の推移

日次、期間: 2019年11月11日~2020年11月9日、各株式指数は指数化



図表2: 米10年国債利回りと原油先物価格の推移

日次、期間: 2019年11月11日~2020年11月9日



※原油先物価格: ニューヨーク・マーカンタイル取引所(NYMEX)で取引されるWTI原油先物(軽質スイート原油先物)の期近物価格で構成

出所: ブルームバーグのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

記載された銘柄はあくまでも参考として紹介したものであり、その銘柄・企業の売買を推奨するものではありません。